

2022 年 9 月 9 日
日本共産党札幌市議団
団長 村上ひとし

日米共同訓練並びにオスプレイの丘珠空港飛来中止を求める申し入れ書

防衛省は 2 日、10 月 1 日から 14 日にかけて、道内 5 ヶ所の自衛隊施設に米軍のオスプレイが参加する訓練を実施すると発表しました。訓練で丘珠駐屯地に飛来するのは初めてとされ、広域にわたり道内で展開するのは例がないとしています。今回の訓練が異例中の異例であることは言うまでもありません。

防衛省が発表した『日米共同訓練（国内における米海兵隊との実動訓練）の概要についてのお知らせ』では「陸上自衛隊及び米海兵隊の部隊が、それぞれの指揮系統に従い、共同して作戦を実施する際の相互連携要領を実行動により訓練し、日米の連携強化及び共同対処能力の向上を図る。」としています。しかし、訓練に参加する第 3 海兵師団は約 7500 名の隊員を有する部隊であり、海外への殴り込み作戦の性格を有した部隊です。防衛省が発表した同報告では訓練内容として、「オスプレイによる人員・物資の輸送、米軍輸送機による『高機動ロケット砲システム（HIMARS）』の展開訓練、滑走路補修訓練、共同警戒訓練」を行うなど、オスプレイの空港使用を重視したものとなっています。

オスプレイは敵地に低空で侵入する特殊作戦を世界中で行うことを任務としている軍用機で、アフガン戦争やイラク戦争でも使われ、特殊作戦の部隊を送り込んで戦争を行ってきました。「未亡人製造機」と異名をとるほど、墜落事故が多く 8 月には機体の不良が相次ぎ、横田基地のオスプレイが飛行を一時停止するまでになりました。

今回の訓練を受け入れることは、今年 30 年をむかえた札幌市平和都市宣言の精神に反するばかりか、現在パブリックコメントが実施されている「丘珠空港の将来像」にも大きくかわる重大問題です。平和都市宣言のまちとして、市民の命や安全を考えて以下のことを求めます。

記

1. オスプレイが参加する訓練が組み込まれた日米共同訓練「レゾリュート・ドラゴン」を中止するよう、日米両政府に対し求めること
2. オスプレイを札幌市内上空で飛行させないよう政府に求めること
3. 訓練計画の変更がない場合に市は、事前にオスプレイの飛行ルート情報を市民に周知し、情報提供を徹底すること
4. 今回の訓練にともなう丘珠空港の騒音調査をおこなうこと
5. 自衛隊訓練及び日米共同訓練による丘珠空港の使用は、「丘珠空港の将来像」には記載されていないため、パブリックコメントへの記載、説明会で言及すること

以上